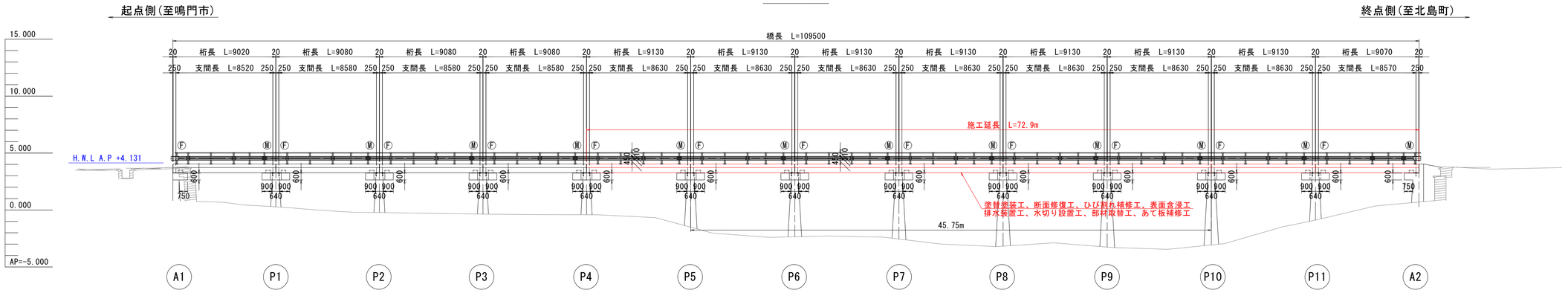
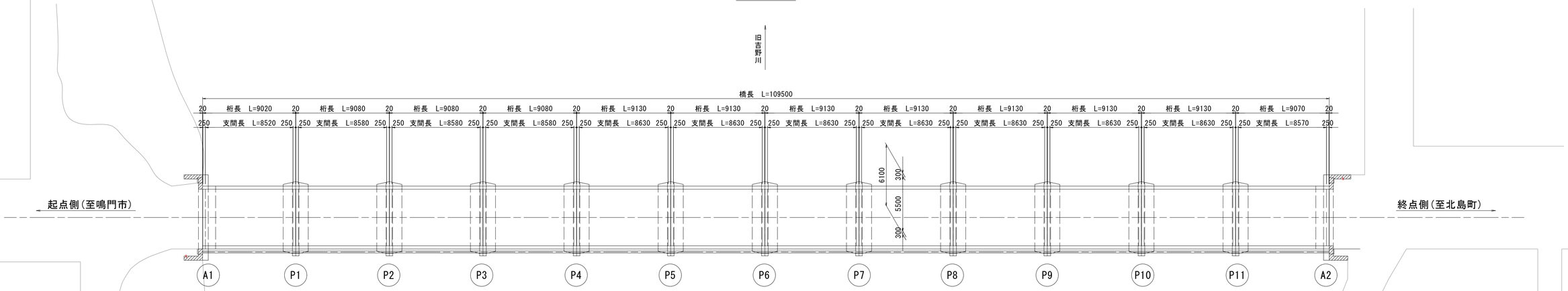
補修一般図 S=1:200

牛屋島橋

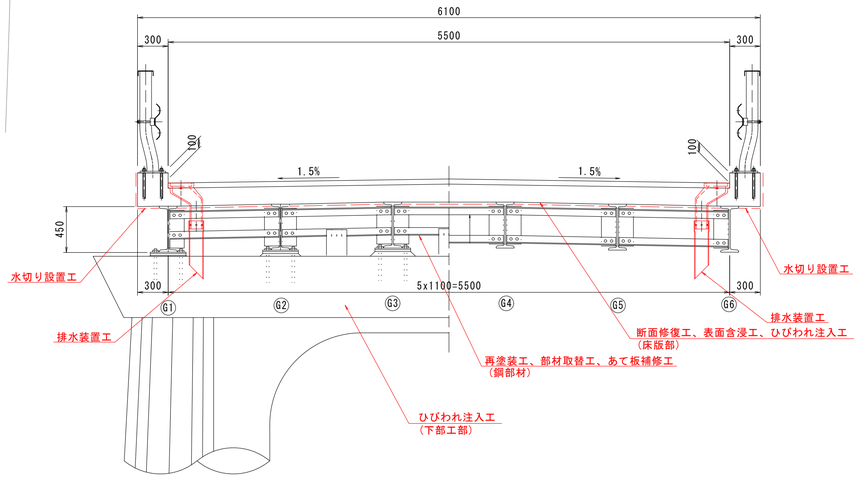
側面図



平面図



断面図 S=1:30



橋梁諸元

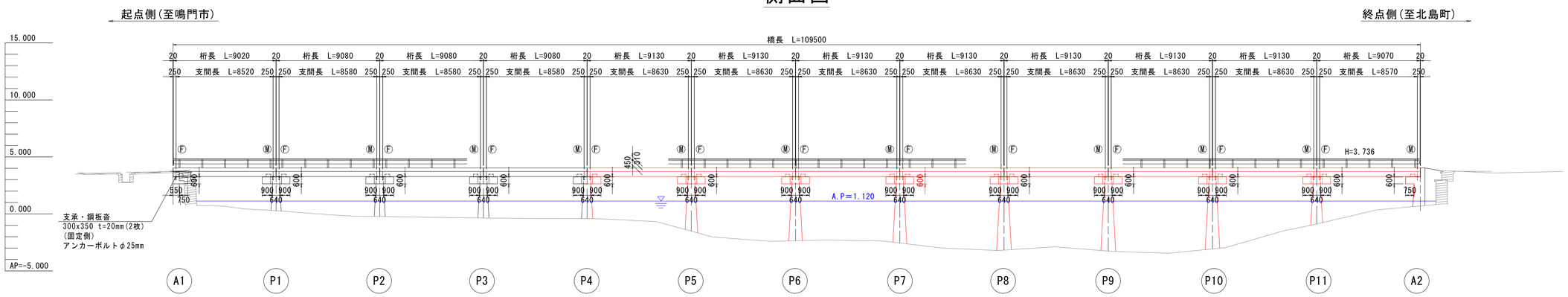
橋梁名称	牛屋島橋
所在地	徳島県鳴門市大麻町牛屋島中須
路線名	牛屋島北島線
管轄	徳島県鳴門市
橋長	109.50m
桁長	109.24m
総幅員	6.10m
有効幅員	5.50m
上部工形式	鋼溶接橋 I桁(非合成)
下部工形式	逆T式橋台壁式橋脚(RC)
基礎工形式	杭基礎
設計荷重	不明
斜角	90° 00' 00"
適用示方書	不明
架設年度	1929年
交差物件	1級河川旧吉野川
添架物	水道管
補修履歴(点検履歴)	2012年：定期点検
	2014年：定期点検
	2019年：定期点検

図面番号	第 1 号	図面総数	全 17 葉	
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事			
図名	補修一般図		縮尺(A1)：図示	
製作年月	令和7年6月	所属年度	令和7年度	
係員	課長	副課長	係長	係員 / 設計・製図 / 照査
鳴門市 都市建設部 土木課				

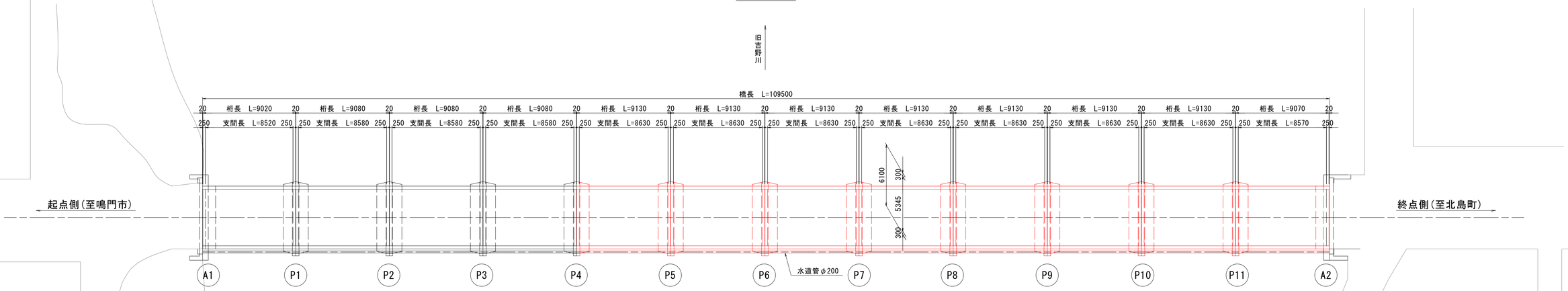
現況構造一般図 S=1:200

牛屋島橋

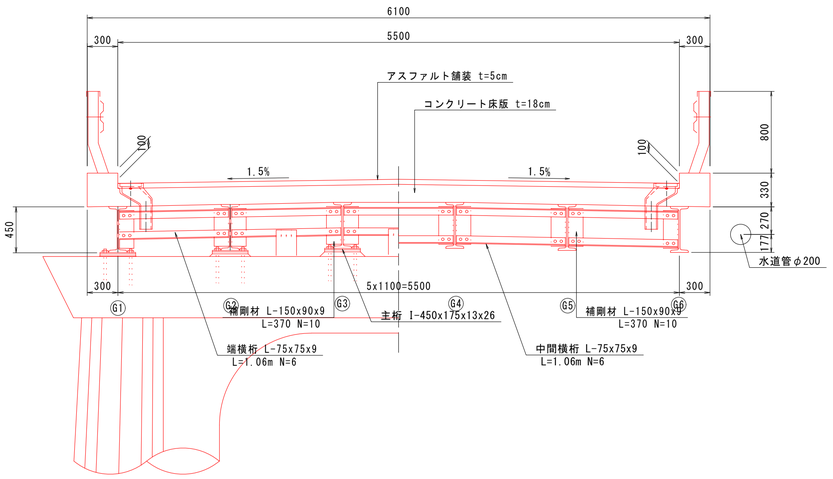
側面図



平面図



断面図 S=1:30



※舗装厚およびコンクリート床版厚は推測値である。

橋梁諸元

橋梁名称	牛屋島橋
所在地	徳島県鳴門市大麻町牛屋島中須
路線名	牛屋島北島線
管轄	徳島県鳴門市
橋長	109.50m
桁長	109.24m
総幅員	6.10m
有効幅員	5.50m
上部工形式	鋼溶接橋 I桁(非合成)
下部工形式	逆T式橋台壁式橋脚(RC)
基礎工形式	杭基礎
設計荷重	不明
斜角	90° 00' 00"
適用示方書	不明
架設年度	1929年
交差物件	1級河川旧吉野川
添架物	水道管
補修履歴(点検履歴)	2012年：定期点検
	2014年：定期点検
	2019年：定期点検

図面番号	第 2 号	図面総数	全 17 葉
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事		
図名	現況構造一般図	縮尺(A1)：図示	
製作年月	令和7年6月	所属年度	令和7年度

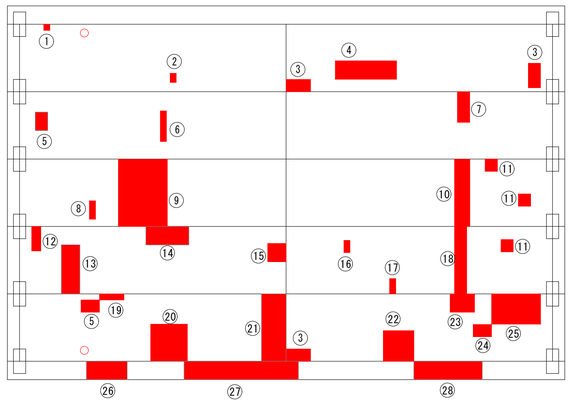
係員	課長	副課長	係長	係員	設計・製図	照査

鳴門市 都市建設部 土木課

補修詳細図（その1） S=1:50

牛屋島橋（床版下面）

第6径間



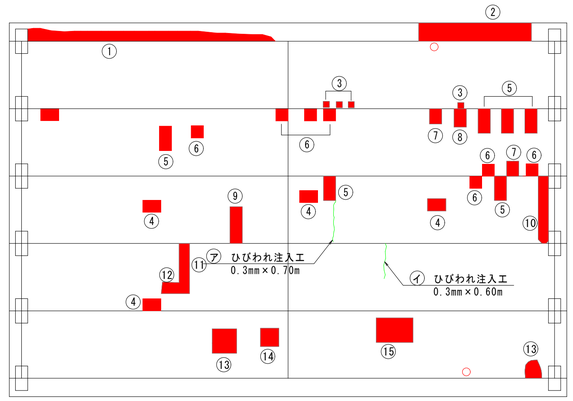
断面修復工

	寸　法(m)		箇所
	幅(w)	高さ(h)	
①	0.1	0.1	1
②	0.1	0.15	1
③	0.4	0.2	3
④	1.0	0.3	1
⑤	0.2	0.3	2
⑥	0.1	0.5	1
⑦	0.2	0.5	1
⑧	0.1	0.3	1
⑨	0.8	1.1	1
⑩	0.3	1.1	1
⑪	0.2	0.2	3
⑫	0.15	0.4	1
⑬	0.3	0.8	1
⑭	0.7	0.3	1
⑮	0.3	0.3	1

断面修復工

	寸　法(m)		箇所
	幅(w)	高さ(h)	
⑯	0.1	0.2	1
⑰	0.1	0.25	1
⑱	0.2	1.1	1
⑲	0.4	0.1	1
⑳	0.6	0.6	1
㉑	0.4	1.1	1
㉒	0.5	0.5	1
㉓	0.4	0.3	1
㉔	0.3	0.2	1
㉕	0.8	0.5	1
㉖	0.65	0.3	1
㉗	1.85	0.3	1
㉘	1.15	0.3	1

第9径間



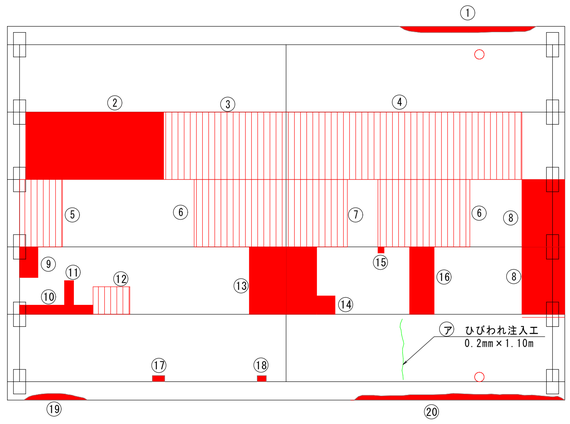
断面修復工

	寸　法(m)		箇所
	幅(w)	高さ(h)	
①	4.0	0.15	1
②	1.8	0.3	1
③	0.1	0.1	4
④	0.3	0.2	4
⑤	0.2	0.4	6
⑥	0.2	0.2	7
⑦	0.2	0.25	2
⑧	0.2	0.3	1
⑨	0.2	0.6	1
⑩	0.3	1.1	1
⑪	0.15	0.8	1
⑫	0.15	0.3	1
⑬	0.4	0.4	2
⑭	0.3	0.3	1
⑮	0.6	0.4	1

ひび割れ注入

	寸　法		箇所
	幅(W)mm	長さ(L)m	
㋐	0.3	0.7	1
㋑	0.3	0.6	1

第7径間



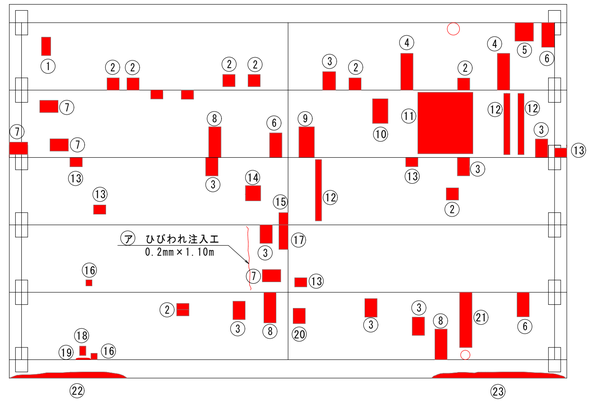
断面修復工

	寸　法(m)		箇所
	幅(w)	高さ(h)	
①	2.2	0.1	1
②	2.3	1.1	1
③	2.5	1.1	1
④	5.9	1.1	1
⑤	0.7	1.1	1
⑥	1.5	1.1	2
⑦	1.0	1.1	1
⑧	0.5	1.1	2
⑨	0.3	0.5	1
⑩	1.2	0.15	1
⑪	0.15	0.4	1
⑫	0.6	0.45	1
⑬	1.1	1.1	1
⑭	0.3	0.3	1
⑮	0.1	0.1	1
⑯	0.4	1.1	1
⑰	0.2	0.1	1
⑱	0.15	0.1	1
⑲	0.9	0.1	1
⑳	3.4	0.1	1

ひび割れ注入

	寸　法		箇所
	幅(W)mm	長さ(L)m	
㋐	0.2	1.1	1

第10径間



断面修復工

	寸　法(m)		箇所
	幅(w)	高さ(h)	
①	0.15	0.3	1
②	0.2	0.2	8
③	0.2	0.3	8
④	0.2	0.6	2
⑤	0.3	0.3	1
⑥	0.2	0.4	3
⑦	0.3	0.2	4
⑧	0.2	0.5	3
⑨	0.25	0.5	1
⑩	0.25	0.4	1
⑪	0.7	0.8	1
⑫	0.1	0.1	3
⑬	0.2	0.15	5
⑭	0.25	0.25	1
⑮	0.15	0.2	1

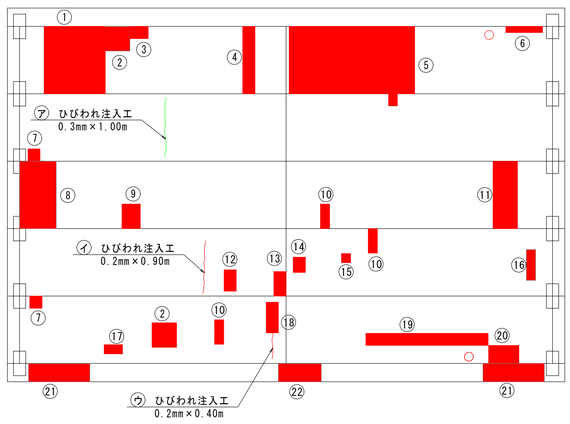
断面修復工

	寸　法(m)		箇所
	幅(w)	高さ(h)	
⑯	0.1	0.1	2
⑰	0.15	0.4	1
⑱	0.1	0.15	1
⑲	0.25	0.05	1
⑳	0.2	0.25	1
㉑	0.2	0.9	1
㉒	1.8	0.1	1
㉓	2.2	0.1	1

ひびわれ注入

	寸　法		箇所
	幅(W)mm	長さ(L)m	
㋐	0.2	1.1	1

第8径間



断面修復工

	寸　法(m)		箇所
	幅(w)	高さ(h)	
①	1.0	1.1	1
②	0.4	0.4	2
③	0.3	0.2	1
④	0.2	1.1	1
⑤	2.0	1.1	1
⑥	0.6	0.1	1
⑦	0.2	0.2	2
⑧	0.6	1.1	1
⑨	0.3	0.4	1
⑩	0.15	0.4	3
⑪	0.4	1.1	1
⑫	0.2	0.35	1
⑬	0.2	0.4	1
⑭	0.2	0.25	1
⑮	0.15	0.15	1

断面修復工

	寸　法(m)		箇所
	幅(w)	高さ(h)	
⑯	0.15	0.5	1
⑰	0.3	0.15	1
⑱	0.2	0.5	1
⑲	2.0	0.2	1
⑳	0.5	0.3	1
㉑	1.0	0.3	2
㉒	0.7	0.3	1

ひび割れ注入

	寸　法		箇所
	幅(W)mm	長さ(L)m	
㋐	0.3	1.0	1
㋑	0.2	0.9	1
㋒	0.2	0.4	1

※現地実測の上，数量を確定すること。

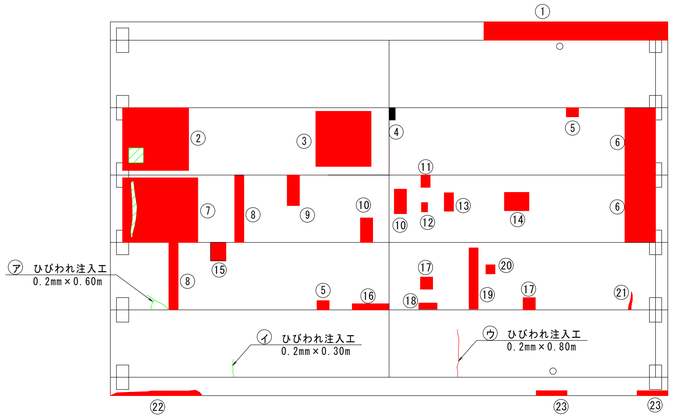
図面番号	第　3　号		図面総数	全　17　葉		
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事					
図名	補修詳細図（その１）			縮尺(A1)：図示		
製作年月	令和7年6月		所属年度	令和７年度		
係員	課長	副課長	係　長	係　員	設計・製図	照査

鳴門市　都市建設部　土木課

補修詳細図（その2） S=1:50

牛屋島橋（床版下面）

第11径間



断面修復工

	寸法(m) 幅(w)	寸法(m) 高さ(h)	箇所
①	3.0	0.3	1
②	1.0	1.1	1
③	0.9	0.9	1
④	0.1	0.2	1
⑤	0.2	0.15	2
⑥	0.5	1.1	2
⑦	1.2	1.1	1
⑧	0.15	1.1	2
⑨	0.2	0.5	1
⑩	0.2	0.4	2
⑪	0.15	0.2	1
⑫	0.1	0.15	1
⑬	0.15	0.3	1
⑭	0.4	0.3	1
⑮	0.25	0.3	1

断面修復工

	寸法(m) 幅(w)	寸法(m) 高さ(h)	箇所
⑯	0.6	0.1	1
⑰	0.2	0.2	2
⑱	0.3	0.1	1
⑲	0.15	1.0	1
⑳	0.15	0.15	1
㉑	0.05	0.25	1
㉒	1.5	0.1	1
㉓	0.5	0.1	2

ひび割れ注入

	寸法 幅(W)mm	寸法 長さ(L)m	箇所
ア	0.2	0.6	1
イ	0.2	0.3	1
ウ	0.2	0.8	1

第12径間

断面修復工

	寸法(m) 幅(w)	寸法(m) 高さ(h)	箇所
①	0.5	0.1	1
②	1.5	0.1	1
③	0.3	0.3	3
④	0.15	0.15	7
⑤	0.5	0.8	1
⑥	0.4	0.3	1
⑦	1.0	1.0	1
⑧	0.5	0.5	1
⑨	0.3	1.1	2
⑩	0.15	1.1	1
⑪	0.25	0.3	2
⑫	0.2	0.3	4
⑬	0.1	0.1	3
⑭	0.15	0.2	1
⑮	0.2	0.5	1

断面修復工

	寸法(m) 幅(w)	寸法(m) 高さ(h)	箇所
⑯	0.2	0.5	1
⑰	0.2	0.2	1
⑱	0.6	0.4	2
⑲	0.25	0.25	1
⑳	0.3	0.4	1
㉑	0.3	0.5	1
㉒	0.2	0.1	1
㉓	0.1	0.2	2

ひび割れ注入

	寸法 幅(W)mm	寸法 長さ(L)m	箇所
ア	0.2	1.1	1
イ	0.2	1.0	1
ウ	0.2	1.1	1

※現地実測の上，数量を確定すること。

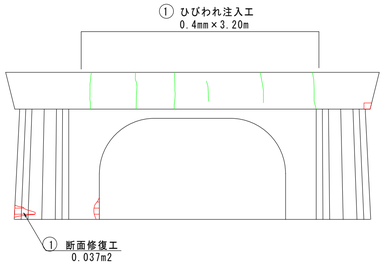
図面番号	第 4 号		図面総数	全 17 葉		
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事					
図名	補修詳細図（その２）			縮尺(A1)：図示		
製作年月	令和７年６月		所属年度	令和７年度		
係員	課長	副課長	係 長	係 員	設計・製図	照査
鳴門市 都市建設部 土木課						

補修詳細図（その3） S=1:50

牛屋島橋

P5橋脚

P6橋脚側



ひびわれ注入工

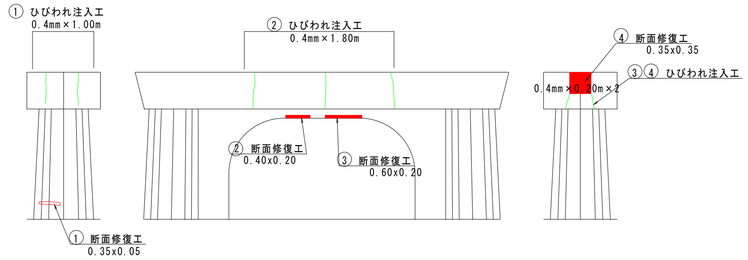
No.	ひびわれ幅 (mm)	補修延長 (m)
①	0.40	1.70

断面修復工

No.	補修面積 (m2)
①	0.037

P7橋脚

P6橋脚側

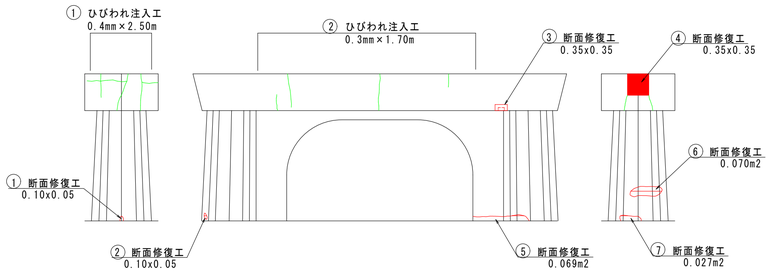


ひびわれ注入工

No.	ひびわれ幅 (mm)	補修延長 (m)
①	0.40	1.00
②	0.40	1.80
③	0.40	0.20
④	0.40	0.20
⑤	0.40	1.95

P6橋脚

P5橋脚側

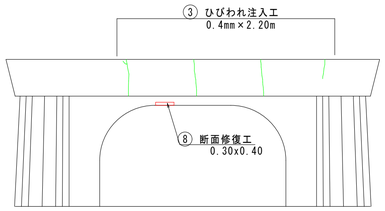


No.	ひびわれ幅 (mm)	補修延長 (m)
①	0.40	2.50
②	0.30	1.70
③	0.40	2.20

断面修復工

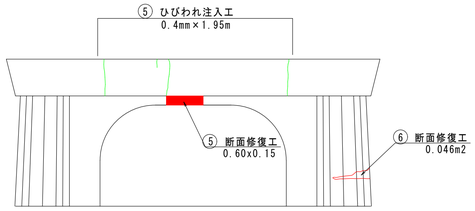
No.	補修面積 (m2)
①	0.005
②	0.005
③	0.12
④	0.12
⑤	0.069
⑥	0.070
⑦	0.027
⑧	0.12

P7橋脚側



P8橋脚

P8橋脚側



断面修復工

No.	補修面積 (m2)
①	0.0175
②	0.08
③	0.12
④	0.12
⑤	0.09
⑥	0.05

※現地実測の上，数量を確定すること。

図面番号	第 5 号		図面総数	全 17 葉		
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事					
図名	補修詳細図（その３）			縮尺(A1)：図示		
製作年月	令和７年６月		所属年度	令和７年度		
係員	課長	副課長	係 長	係 員	設計・製図	照査

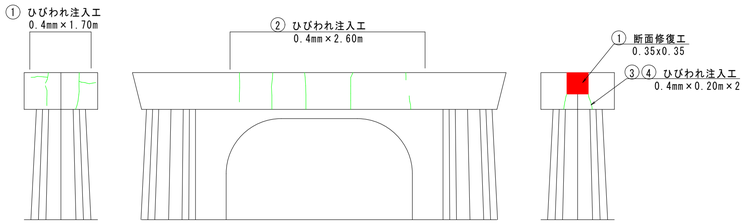
鳴門市 都市建設部 土木課

補修詳細図（その4） S=1:50

牛屋島橋

P8橋脚

P7橋脚側



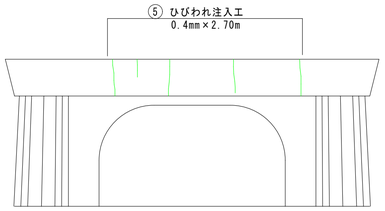
ひびわれ注入工

No.	ひびわれ幅 (mm)	補修延長 (m)
①	0.40	1.70
②	0.40	2.60
③	0.40	0.20
④	0.40	0.20
⑤	0.40	2.70

断面修復工

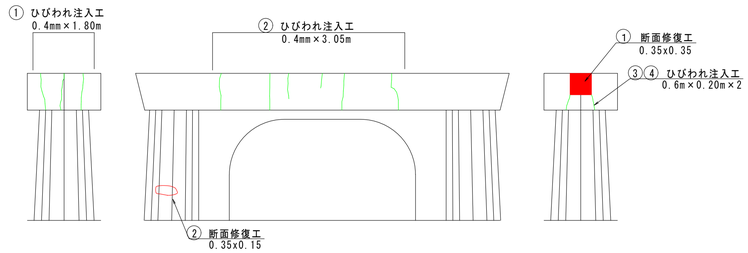
No.	補修面積 (m2)
①	0.12

P9橋脚側



P9橋脚

P8橋脚側



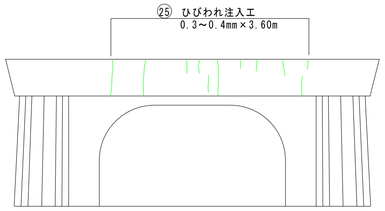
ひびわれ注入工

No.	ひびわれ幅 (mm)	補修延長 (m)
①	0.40	1.80
②	0.40	3.05
③	0.60	0.20
④	0.60	0.20
⑤	0.3～0.4	3.60

断面修復工

No.	補修面積 (m2)
①	0.12
②	0.05

P10橋脚側



※現地実測の上，数量を確定すること。

図面番号	第 6 号		図面総数	全 17 葉		
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事					
図名	補修詳細図（その4）			縮尺(A1)：図示		
製作年月	令和7年6月		所属年度	令和7年度		
係員	課長	副課長	係 長	係 員	設計・製図	照査

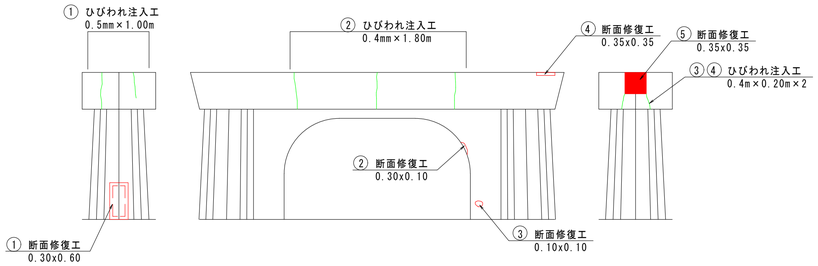
鳴門市 都市建設部 土木課

補修詳細図（その5） S=1:50

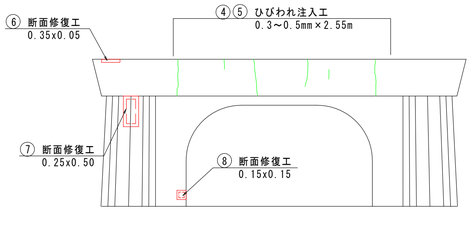
牛屋島橋

P10橋脚

P9橋脚側

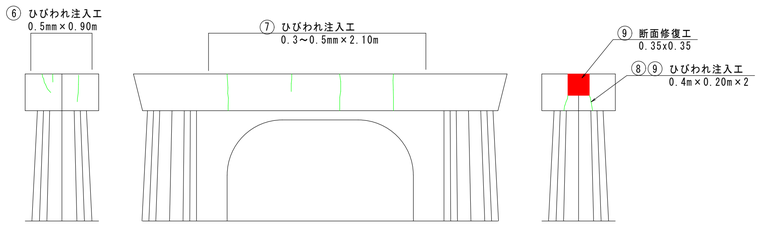


P11橋脚側

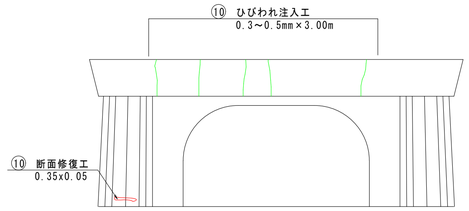


P11橋脚

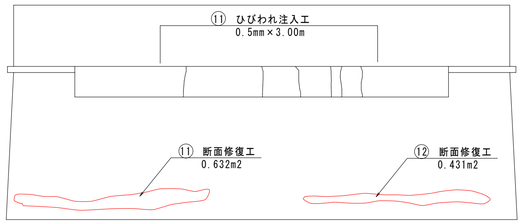
P10橋脚側



A2橋台側



A2橋台



断面修復工

No.	補修面積 (m2)
①	0.18
②	0.01
③	0.12
④	0.12
⑤	0.12
⑥	0.02
⑦	0.13
⑧	0.02
⑨	0.12
⑩	0.02
⑪	0.63
⑫	0.43

ひびわれ注入工

No.	ひびわれ幅 (mm)	補修延長 (m)
①	0.50	1.70
②	0.40	2.10
③	0.40	0.20
④	0.40	0.20
⑤	0.40	3.20
⑥	0.40	2.50
⑦	0.30	1.70
⑧	0.40	0.20
⑨	0.40	0.20
⑩	0.40	2.20
⑪	0.40	1.00

※現地実測の上，数量を確定すること。

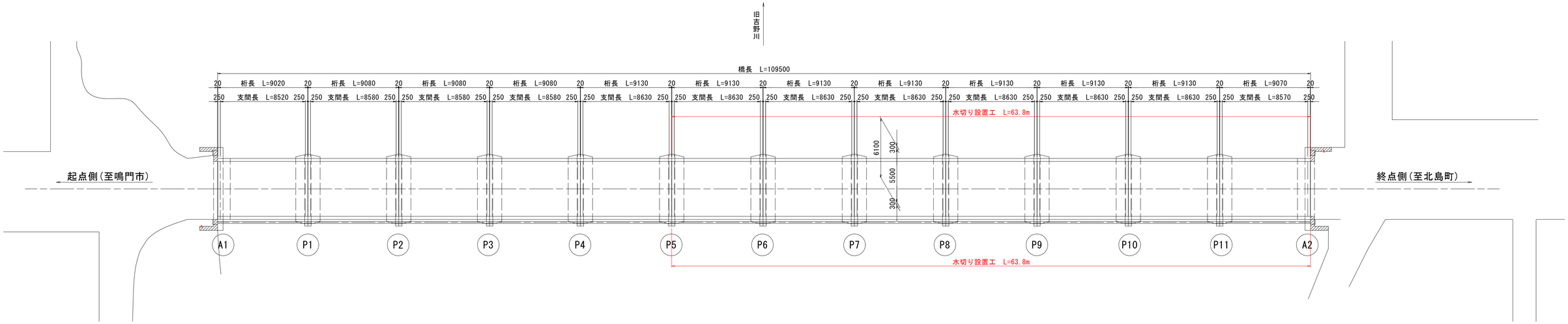
図面番号	第 7 号	図面総数	全 17 葉			
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事					
図名	補修詳細図（その5）	縮尺(A1)：図示				
製作年月	令和7年6月	所属年度	令和7年度			
係員	課長	副課長	係長	係員	設計・製図	照査

鳴門市　都市建設部　土木課

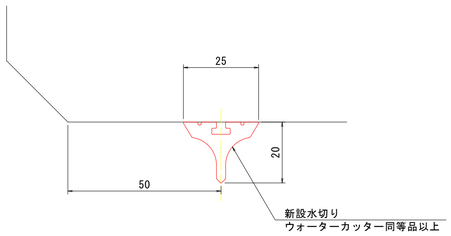
補修詳細図（その6）

表面含浸工，水切り設置工

水切り設置位置図 S=1:200



水切り詳細図 S=1:1

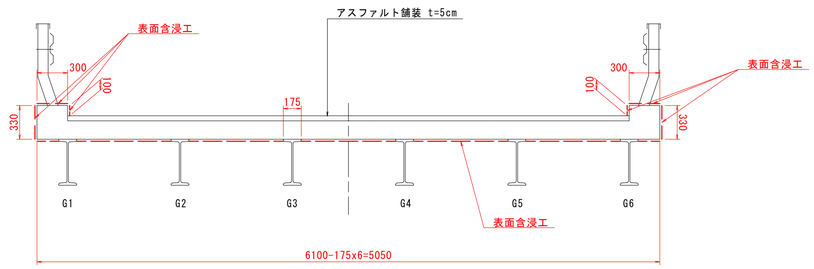


施工手順

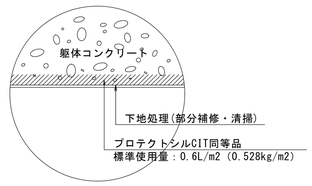
- 表面処理
- 素地乾燥確認
- 接着剤塗布
- 水切り設置
- 硬化養生

注1）水切りと床版の接着性、施工性、水切り機能を確保するため、床版の端から50mm程度の余裕しろを確保すること。

表面含浸工範囲図 S=1:30



表面含浸工詳細図



表面含浸工

施工方向	補修面積(m2)
上向き	322
横向き	54
下向き	35

※現地実測の上，数量を確定すること。

図面番号	第 8 号	図面総数	全 17 葉
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図（その６）	縮尺(A1)：図示	
製作年月	令和7年6月	所属年度	令和 7 年度

係員	課長	副課長	係 長	係 員	設計・製図	照査

鳴門市 都市建設部 土木課

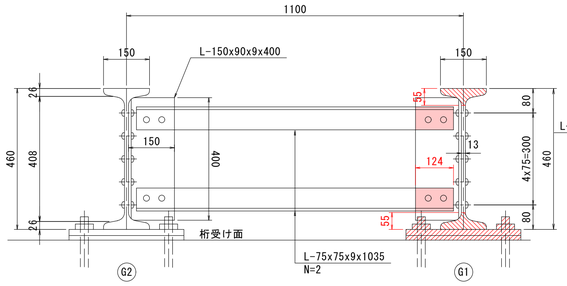
部材取替え詳細図（その1） S=1:10

牛屋島橋　第5径間

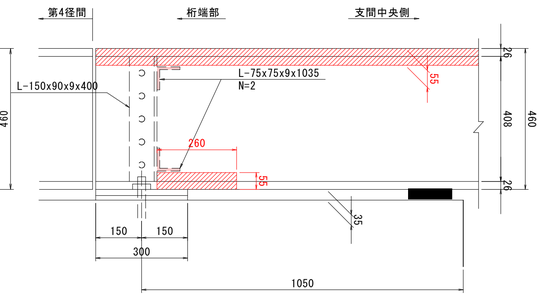
G1桁起点側（損傷箇所①）

現況図（損傷範囲）

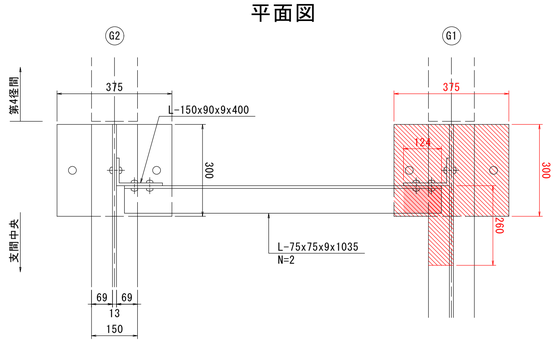
正面図



側面図



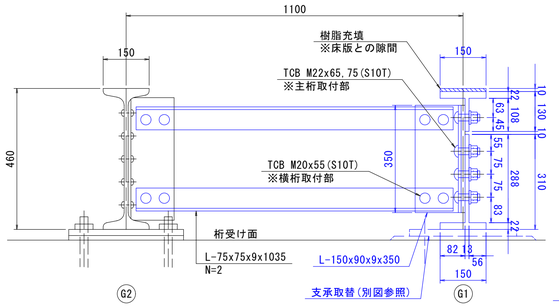
平面図



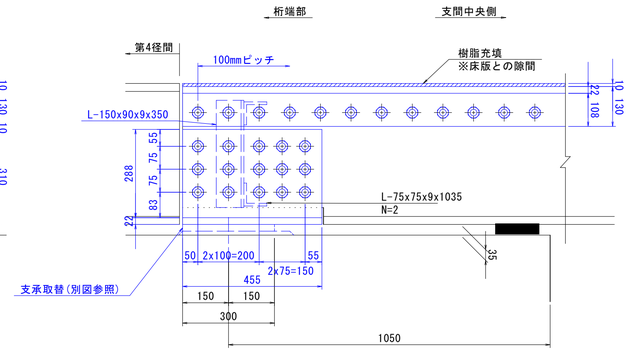
注）着色箇所は、腐食・断面減少の発生箇所を示す。

補修対策図

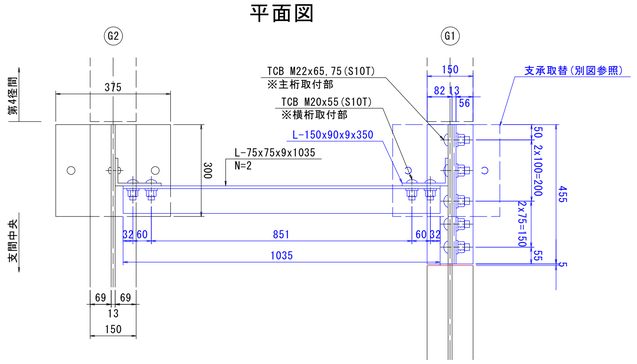
正面図



側面図



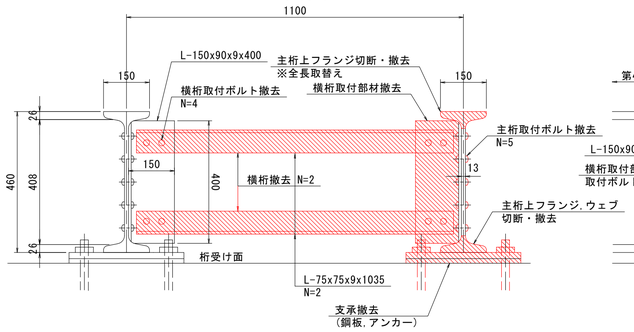
平面図



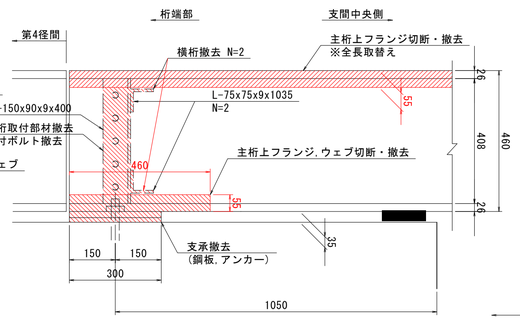
注）主桁上フランジの補修対策については、別途対策図に示す。
注）支承の補修対策については、別途対策図に示す。

既設部材撤去図

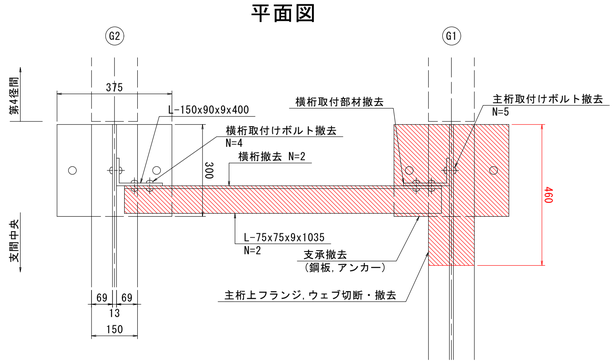
正面図



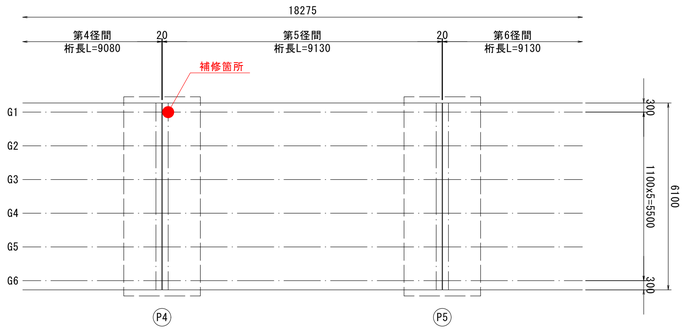
側面図



平面図



位置図



注記）

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 腐食損傷によって、当て板補修箇所に不陸が発生している場合には、金属パテ等により不陸調整を行うこと。

図面番号	第　9　号		図面総数	全　17　葉			
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事						
図名	部材取替え詳細図（その1）			縮尺(A1)：図示			
製作年月	令和7年6月		所属年度	令和7年度			
係員	課長	副課長	係　長	係　員	設計・製図	照査	

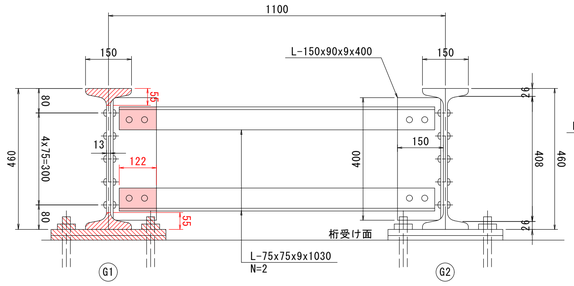
鳴門市　都市建設部　土木課

部材取替え詳細図（その2） S=1:10

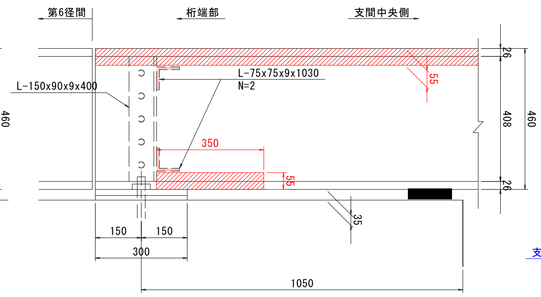
牛屋島橋　第5径間
G1桁終点側（損傷箇所②）

現況図（損傷範囲）

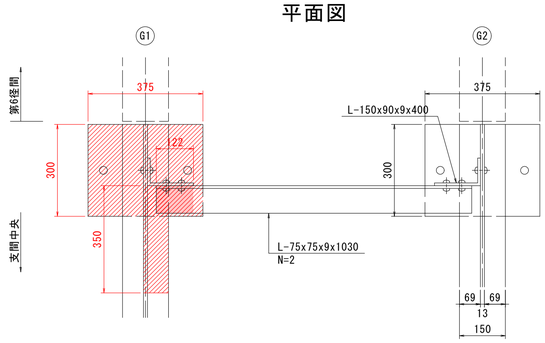
正面図



側面図



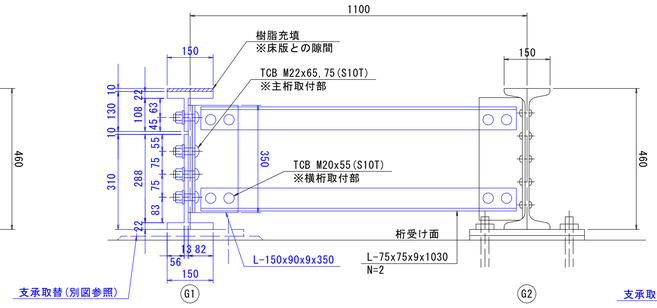
平面図



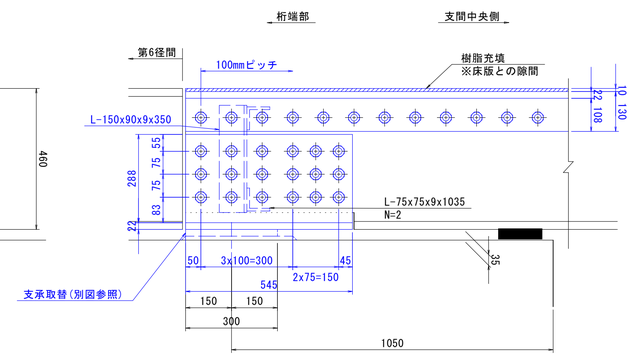
注）着色箇所は、腐食・断面減少の発生箇所を示す。

補修対策図

正面図

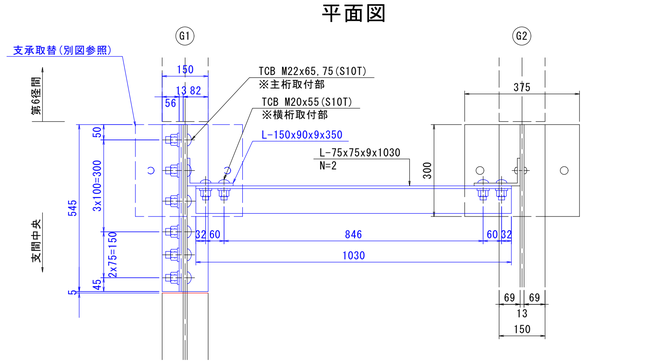


側面図



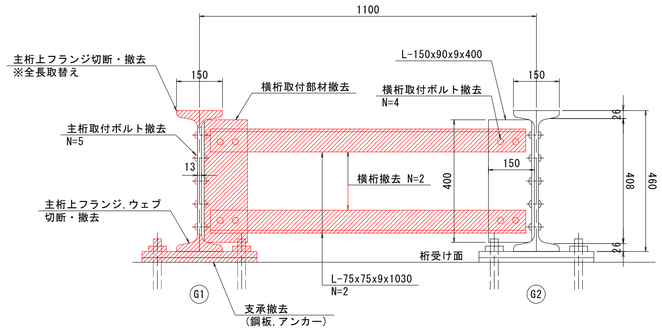
注）主桁上フランジの補修対策については、別途対策図に示す。
注）支承の補修対策については、別途対策図に示す。

平面図

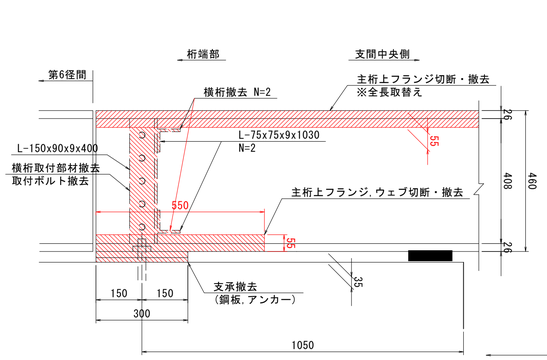


既設部材撤去図

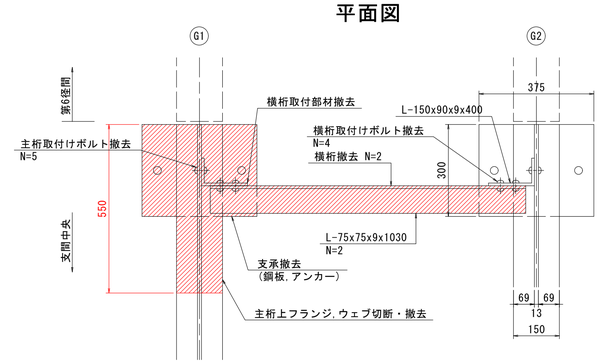
正面図



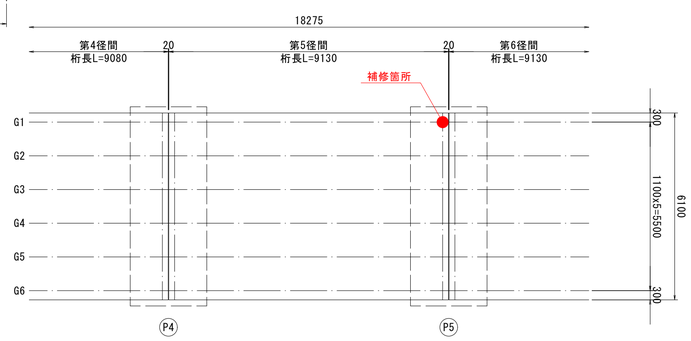
側面図



平面図



位置図



注記）
1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 腐食損傷によって、当て板補修箇所に不陸が発生している場合には、金属パテ等により不陸調整を行うこと。

図面番号	第　10　号		図面総数	全　17　葉		
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事					
図名	部材取替え詳細図（その2）			縮尺(A1)：図示		
製作年月	令和7年6月		所属年度	令和7年度		
係員	課長	副課長	係　長	係　員	設計・製図	照査

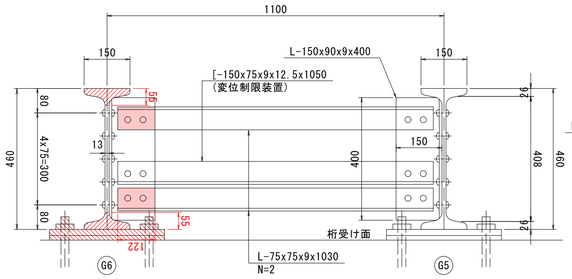
鳴門市　都市建設部　土木課

部材取替え詳細図（その3） S=1:10

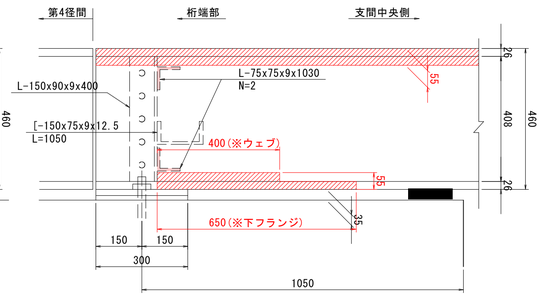
牛屋島橋　第5径間
G6桁起点側（損傷箇所③）

現況図（損傷範囲）

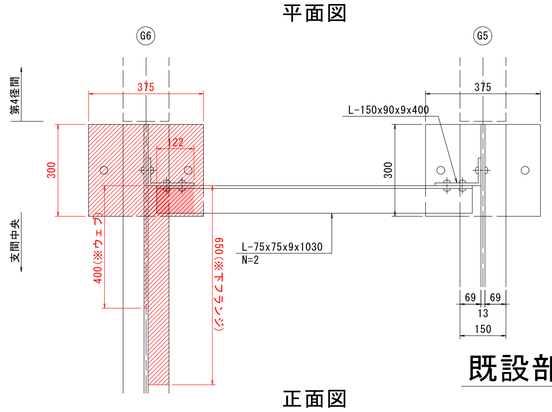
正面図



側面図



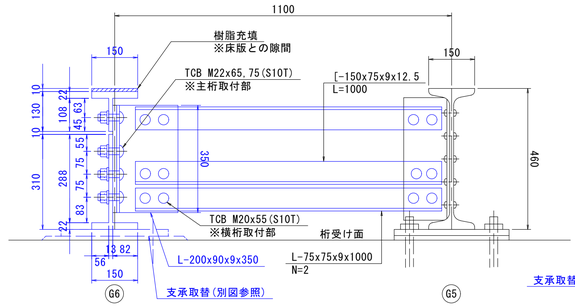
平面図



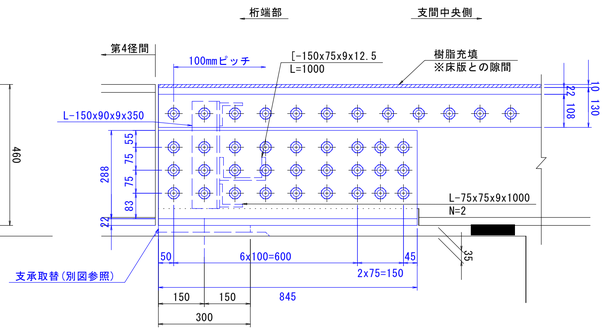
注）着色箇所は、腐食・断面減少の発生箇所を示す。

補修対策図

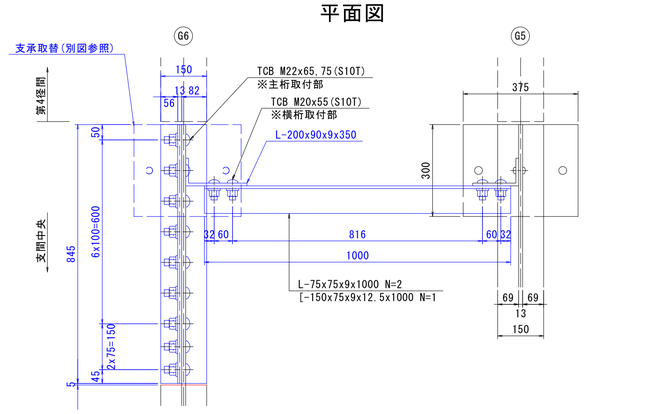
正面図



側面図



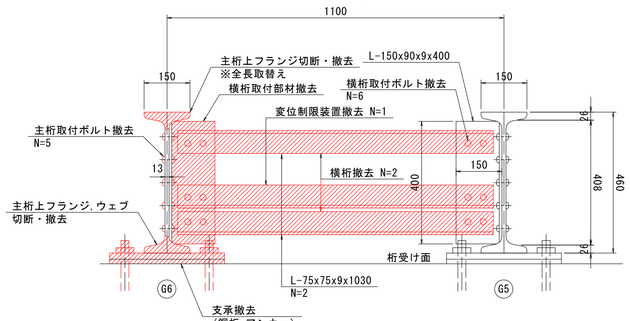
平面図



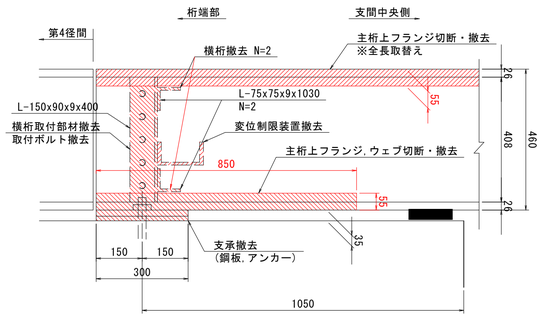
注）主桁上フランジの補修対策については、別途対策図に示す。
注）支承の補修対策については、別途対策図に示す。

既設部材撤去図

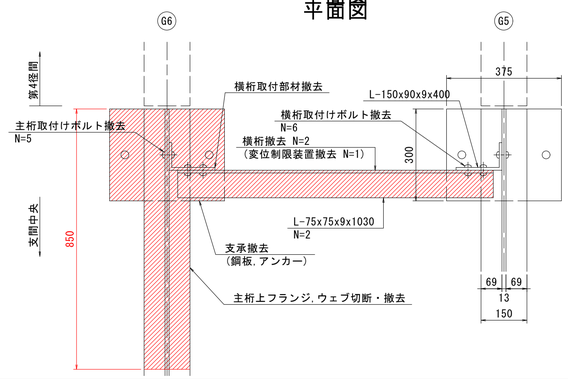
正面図



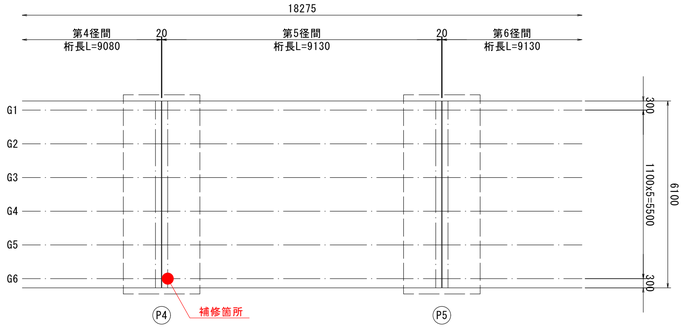
側面図



平面図



位置図



注記）
1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 腐食損傷によって、当て板補修箇所に不陸が発生している場合には、金属パテ等により不陸調整を行うこと。

図面番号	第　11　号	図面総数	全　17　葉
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事		
図名	部材取替え詳細図（その3）	縮尺(A1)：図示	
製作年月	令和7年6月	所属年度	令和7年度

係員	課長	副課長	係　長	係　員	設計・製図	照査

鳴門市　都市建設部　土木課

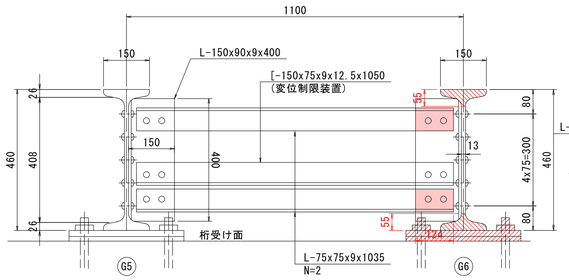
部材取替え詳細図（その4） S=1:10

牛屋島橋　第5径間

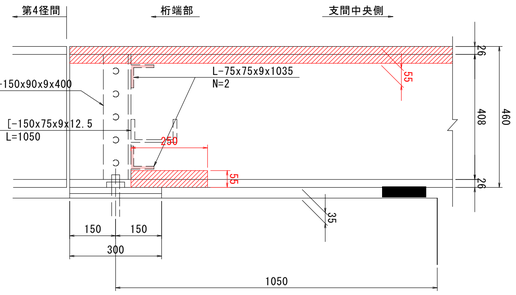
G6桁終点側（損傷箇所④）

現況図（損傷範囲）

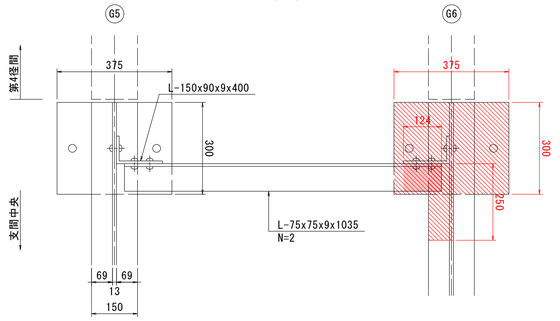
正面図



側面図



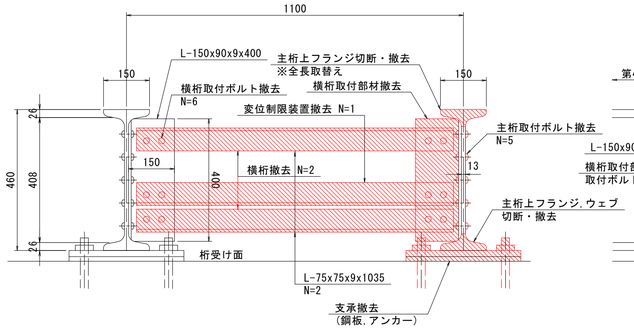
平面図



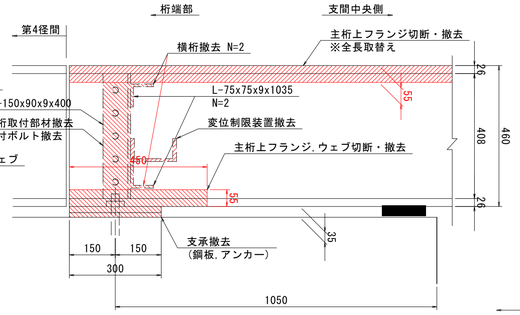
注）着色箇所は、腐食・断面減少の発生箇所を示す。

既設部材撤去図

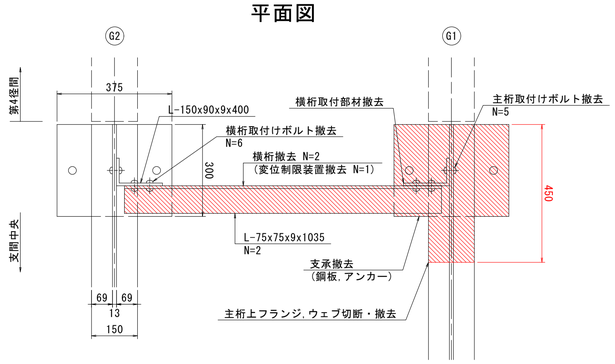
正面図



側面図

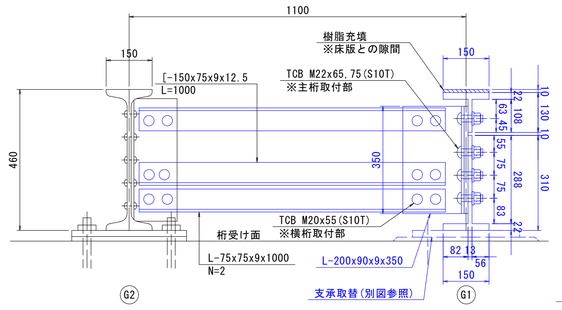


平面図

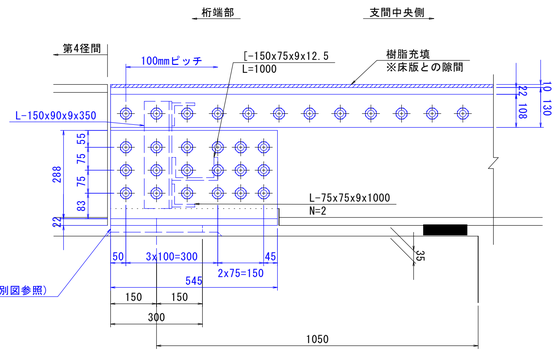


補修対策図

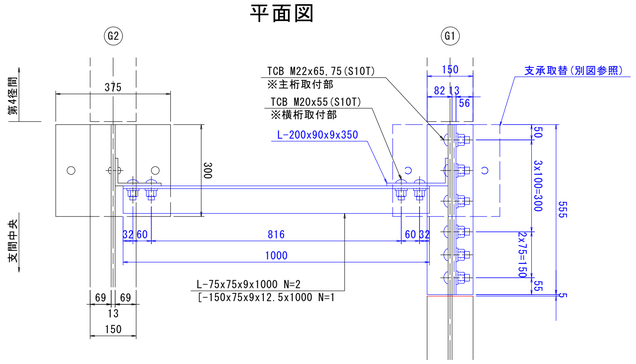
正面図



側面図

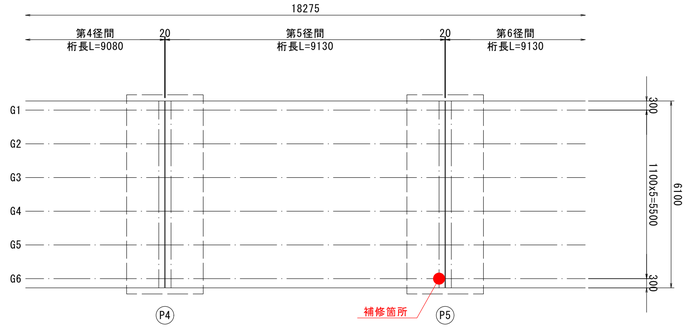


平面図



注）主桁上フランジの補修対策については、別途対策図に示す。
注）支承の補修対策については、別途対策図に示す。

位置図



注記）

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 腐食損傷によって、当て板補修箇所に不陸が発生している場合には、金属パテ等により不陸調整を行うこと。

図面番号	第　12　号		図面総数	全　17　葉			
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事						
図名	部材取替え詳細図（その4）			縮尺(A1)：図示			
製作年月	令和7年6月		所属年度	令和7年度			
係員	課長	副課長	係　長	係　員		設計・製図	照査

鳴門市　都市建設部　土木課

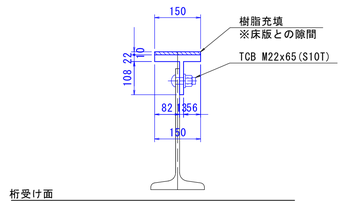
部材取替え詳細図（その5） S=1:10

牛屋島橋　第5径間
主桁上フランジ，支承取替え

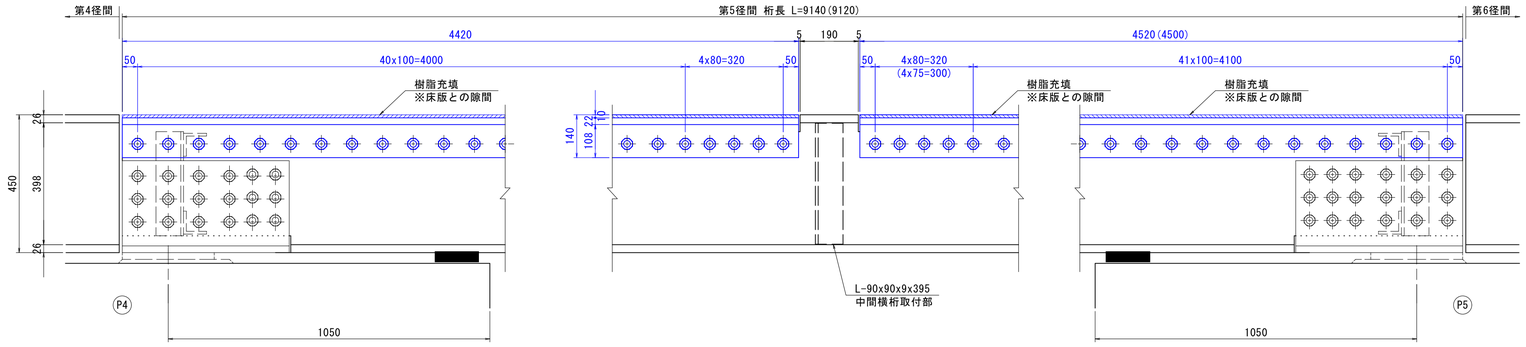
上フランジ補修対策図

G1桁・G6桁共通(N=2)

正面図
（標準部）



側面図



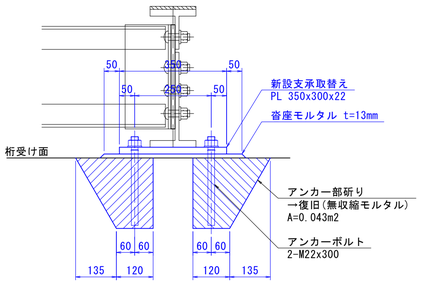
注）()内の数値はG6桁を示す。

支承補修対策図

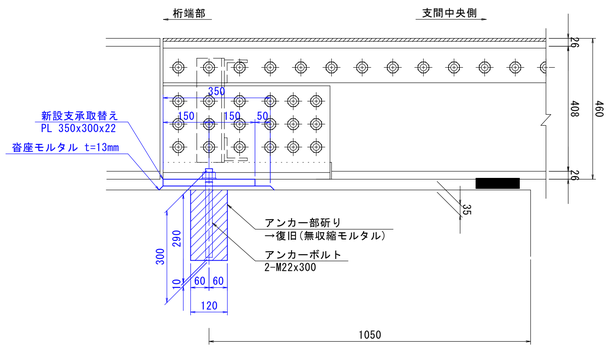
G1桁・G6桁共通G1桁・G6桁共通(N=4)

支承取替詳細図

正面図

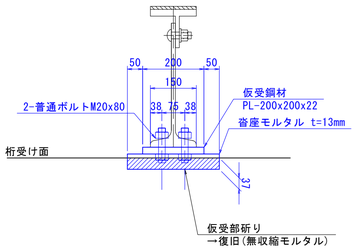


側面図

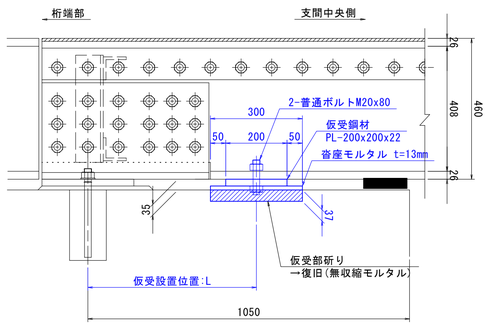


主桁仮受詳細図

正面図

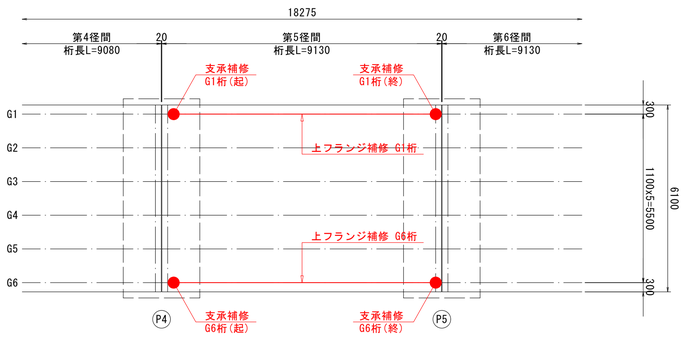


側面図



補修箇所	L
G1(P4)	610
G1(P5)	700
G6(P4)	1000
G6(P5)	700

位置図



注記）
1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 腐食損傷によって、当て板補修箇所に不陸が発生している場合には、金属パテ等により不陸調整を行うこと。

図面番号	第　13　号	図面総数	全　17　葉
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事		
図名	部材取替え詳細図(その5)	縮尺(A1)：図示	
製作年月	令和7年6月	所属年度	令和7年度

係員	課長	副課長	係　長	係　員	設計・製図	照査

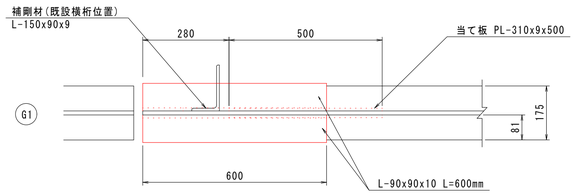
鳴門市　都市建設部　土木課

主桁補修構造図（その1） S=1:10

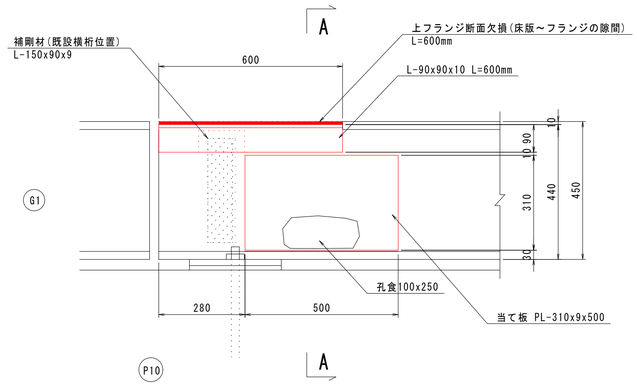
牛屋島橋

第10径間P10橋脚・G1桁補修図

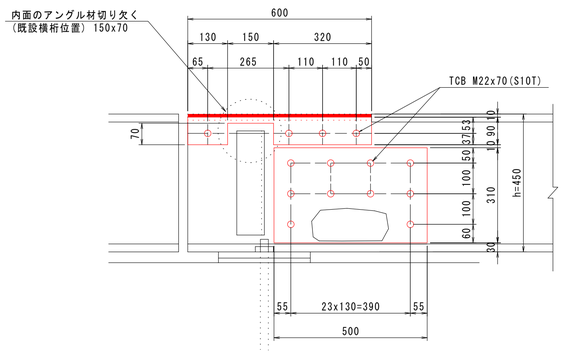
上フランジ



ウエブ当て板補修



ボルト配置図



2-PL 310x9x500 (SM400A)

2-L 90x90x9x600 (SS400)

14-TCB M22x70(S10T)

※素地調整
・フランジ
A=0.175x0.600=0.105m2

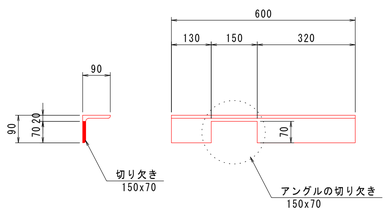
・ウエブ
A=0.310x0.500+0.090x0.600x2
=0.263m2

※エポキシ樹脂充填材
・フランジ(平均厚t=10mm)
A=0.175x0.600=0.105m2

・ウエブ(平均厚t=5mm)
A=0.310x0.500+0.090x0.600x2
=0.263m2

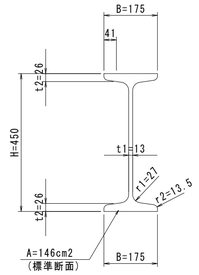
※既設材孔明け
・φ24.5 N=14

アングル切り欠き

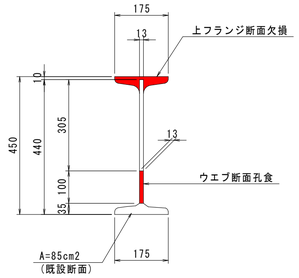


断面図

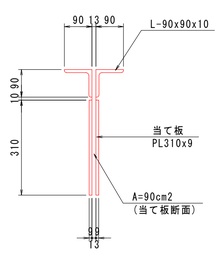
一般断面図



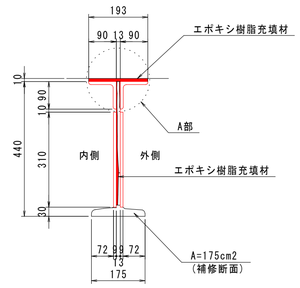
断面減少図(A-A)



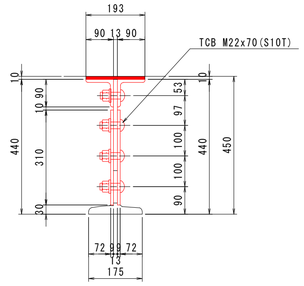
当て板部材図



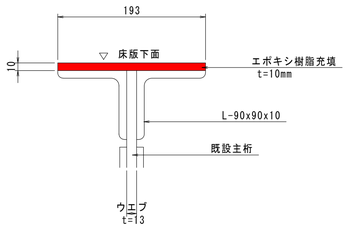
断面補修図



当て板取付図



A部詳細



※全ての補修部材の寸法は、現橋部材を計測してから決定すること。
※主桁の断面減少図は、最も減少量の大きい支点孔食部の位置で表示する。
※上フランジの断面減少部はアングル鋼材、ウエブの孔食部は当て板で補修する。
※エポキシ樹脂充填材による床版～フランジの隙間厚は、平均10mmを想定する。
※エポキシ樹脂充填材によるウエブの不陸調整の厚さは、平均5mmを想定する。
※素地調整は2種ケレンとし、素地面に浮き錆が残らないように入念にする。
※パテ処理材料は、塗装との付着性に問題のない材料を使用する。

施工手順

局部当て板補修対策
G1桁P10橋脚支点部

開始
↓
足場設置
↓
現地計測-寸法確認 → 工場製作
↓
清掃-素地調整
↓
防食下地
有機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ
↓
凹凸処理
パテ処理工
↓
部材撤去 孔明け
あて板処理
↓
グラインダー仕上げ
↓
部分防食工
塗装RC-Ⅱ(有機ｼﾞﾝｸ)
↓
足場撤去
↓
終了

※再塗装に合わせて実施する場合は、塗装足場と兼用する。

塗装条件

塗装工程	塗料名	使用量(g/m2)	塗装間隔	標準膜厚(μm)
素地調整	2種ケレン		4時間以内	-
下　塗	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日	75
下　塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日～10日	60
下　塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日～10日	60
中　塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	1日～10日	30
上　塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用上塗	120	1日～10日	25

※素地調整２種程度で旧塗膜を全面除去するもとし、有機ジンクリッチペイントの使用量は600g/m2とする。

図面番号	第　14　号	図面総数	全　17　葉
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事		
図名	主桁補修構造図(その1)	縮尺(A1)：図示	
製作年月	令和７年６月	所属年度	令和７年度

係員	課長	副課長	係　長	係　員	設計・製図	照査

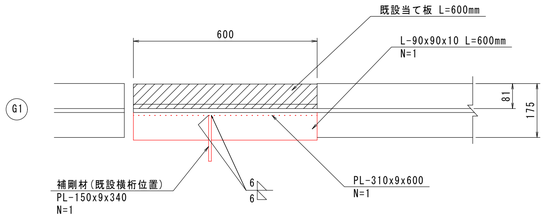
鳴門市　都市建設部　土木課

主桁補修構造図（その2） S=1:10

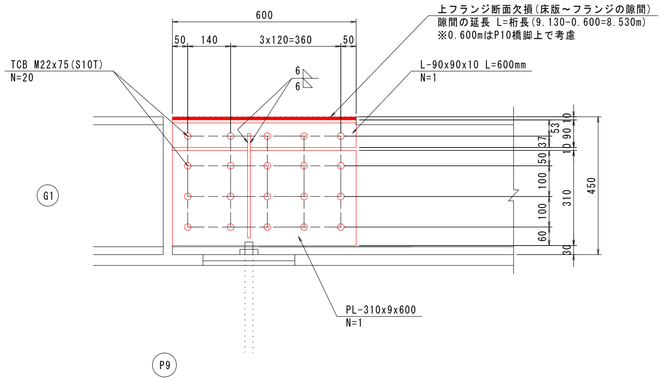
牛屋島橋

第10径間P9橋脚・G1桁補修図

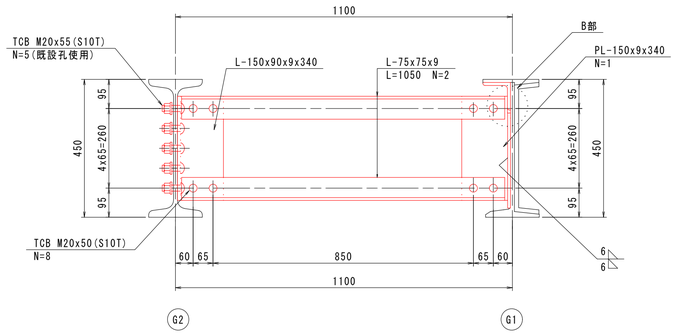
上フランジ



ウエブ当て板補修



ボルト配置図



1-PL 150x9x340 (SM400A)
1-PL 310x9x600 (SM400A)
1-L 90x90x9x600 (SS400)
2-L 75x75x9x1050 (SS400)
1-L 150x90x9x340 (SS400)
8-TCB M20x50(S10T)
5-TCB M20x55(S10T)
20-TCB M22x75(S10T)

※素地調整
・フランジ
A=0.175x(9.130-0.6)=1.493m2

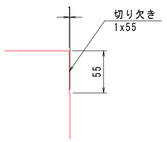
・ウエブ
A=0.310x0.600+0.090x0.600
=0.240m2

※エポキシ樹脂充填材
・フランジ(平均厚t=10mm)
A=0.175x(9.130-0.6)=1.493m2

・ウエブ(平均厚t=5mm)
A=0.310x0.600+0.090x0.600
=0.240m2

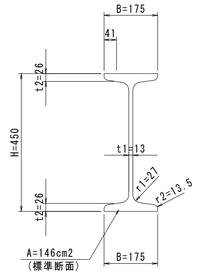
※既設材孔明け
・φ24.5 N=20

B部詳細

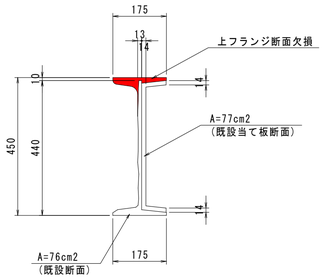


断面図

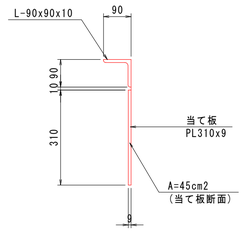
一般断面図



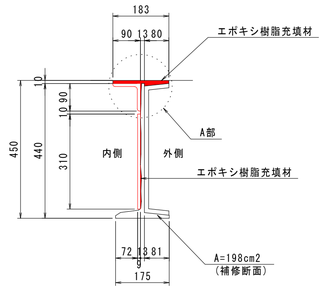
断面減少図(A-A)



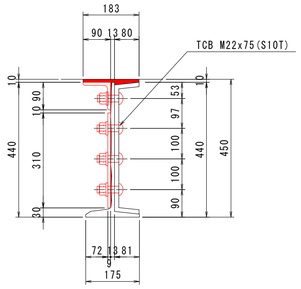
当て板部材図



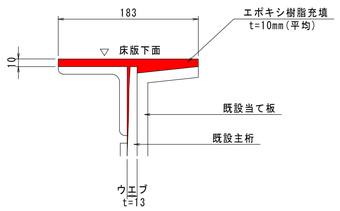
断面補修図



当て板取付図



A部詳細



施工手順

局部当て板補修対策
G1桁P9橋脚支点部

開始
↓
足場設置
↓
現地計測-寸法確認
↓
清掃-素地調整
↓
防食下地
有機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ
↓
凹凸処理
パテ処理工
↓
部材撤去 孔明け
あて板処理
↓
グラインダー仕上げ
↓
部分防食工
塗装RC-Ⅱ(有機ｼﾞﾝｸ)
↓
足場撤去
↓
終了

工場製作 → 凹凸処理 パテ処理工

※再塗装に合わせて実施する場合は、塗装足場と兼用する。

塗装条件

塗装工程	塗料名	使用量(g/m2)	塗装間隔	標準膜厚(μm)
素地調整	2種ケレン		4時間以内	-
下 塗	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日	75
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日～10日	60
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日～10日	60
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	1日～10日	30
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用上塗	120	1日～10日	25

※素地調整２種程度で旧塗膜を全面除去するもとし、有機ジンクリッチペイントの使用量は600g/m2とする。

※全ての補修部材の寸法は、現橋部材を計測してから決定すること。
※主桁の断面減少図は、最も減少量の大きい支点孔食部の位置で表示する。
※上フランジの断面減少部はアングル鋼材、ウエブの孔食部は当て板で補修する。
※エポキシ樹脂充填材による床版～フランジの隙間厚は、平均10mmを想定する。
※エポキシ樹脂充填材によるウエブの不陸調整の厚さは、平均5mmを想定する。
※素地調整は2種ケレンとし、素地面に浮き錆が残らないように入念にする。
※パテ処理材料は、塗装との付着性に問題のない材料を使用する。
※G1桁の床版～フランジ隙間のエポキシ樹脂充填は全桁長(L=9.13-0.60=8.53m)とする。

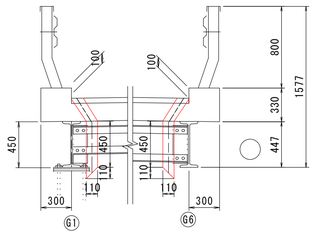
図面番号	第 15 号	図面総数	全 17 葉
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事		
図名	主桁補修構造図(その2)		縮尺(A1)：図示
製作年月	令和7年6月	所属年度	令和7年度

係員	課長	副課長	係 長	係 員	設計・製図	照査

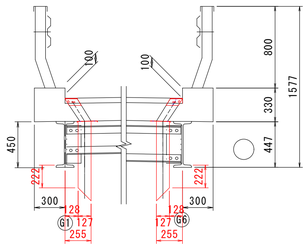
鳴門市 都市建設部 土木課

排水装置取替詳細図 S=1:30

断面図
現況

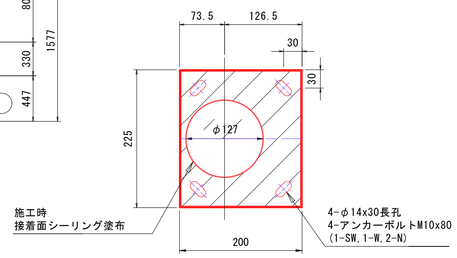


断面図
取替後

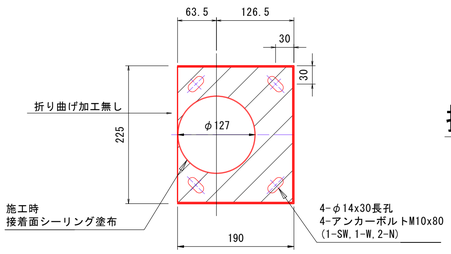


排水管詳細図 S=1:5

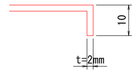
平面図
下流側　製作数=7



平面図
上流側　製作数=7

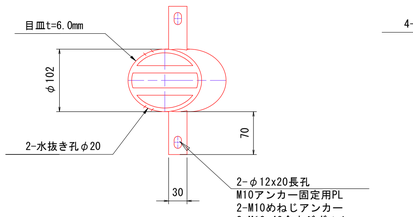


外周曲加工詳細図 S=1:1

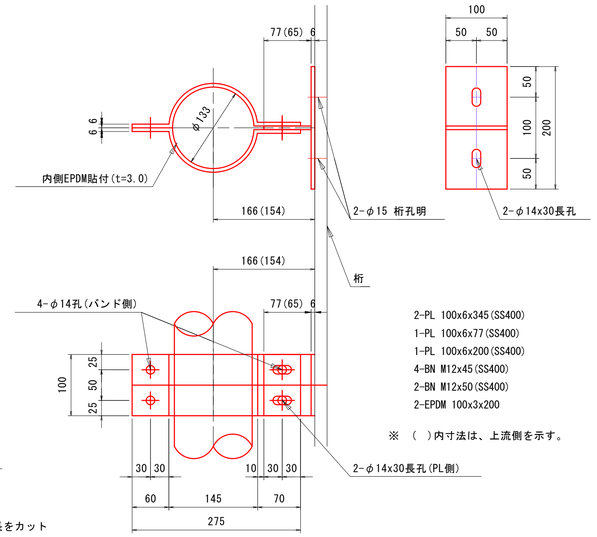


排水桝詳細図 S=1:6
製作数=14

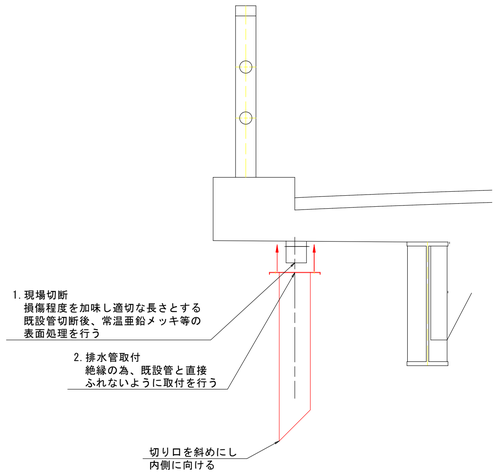
平面図



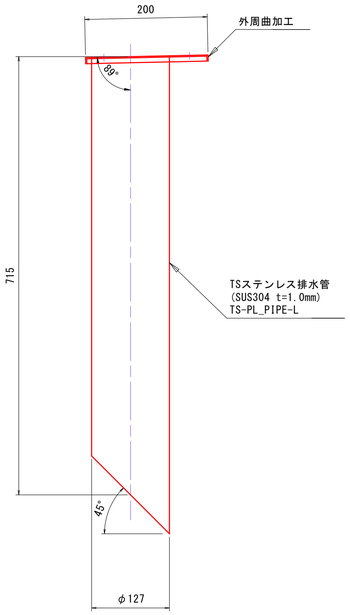
取付金具詳細図
製作数=14



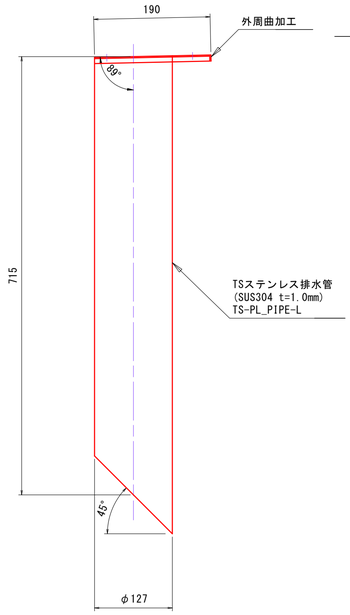
排水管取付要領図



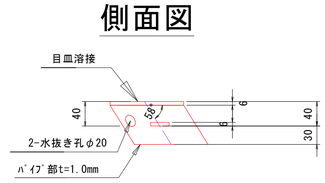
側面図



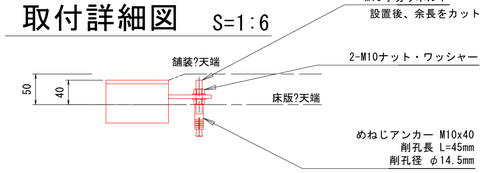
側面図



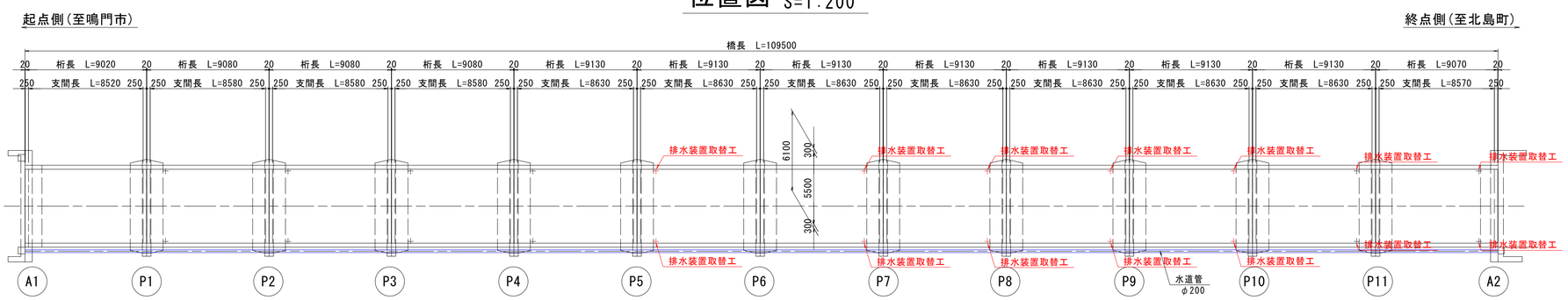
側面図



取付詳細図 S=1:6



位置図 S=1:200



注）1.特記なき材質はすべてSUS304とする。
2.排水装置はTSステンレス排水装置に準ずる。
3.天板プレート一体型排水装置は、NETIS No.CB-190003-Aに準ずる。
4.SS400は全て溶融亜鉛メッキ
(JIS H 8641 2種　HDZ55) 仕上げを行う。
但し、ボルト類はHDZ35とする。
5.t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し
耐食性向上の措置を講じる。
6.現地調査にて寸法確定後製作する。

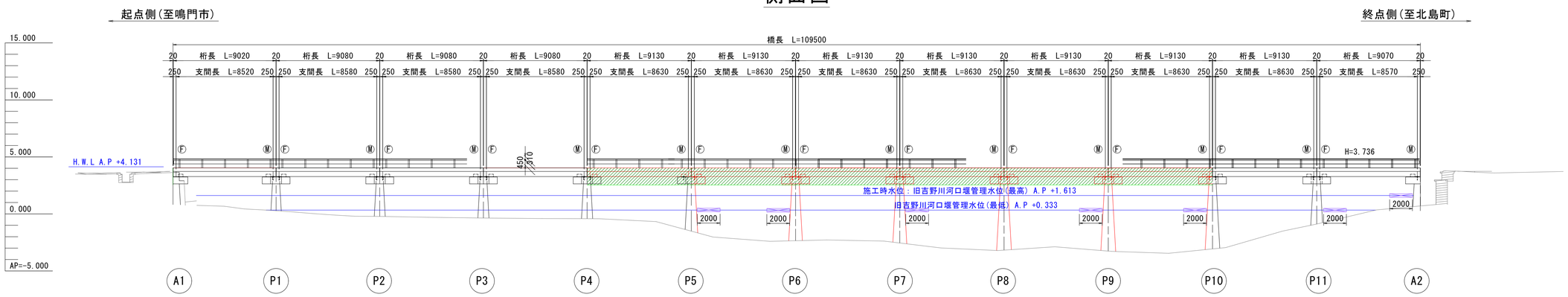
図面番号	第　16　号		図面総数	全　17　葉		
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事					
図名	排水装置取替詳細図			縮尺(A1)：図示		
製作年月	令和7年6月		所属年度	令和7年度		
係員	課長	副課長	係　長	係　員	設計・製図	照査

鳴門市　都市建設部　土木課

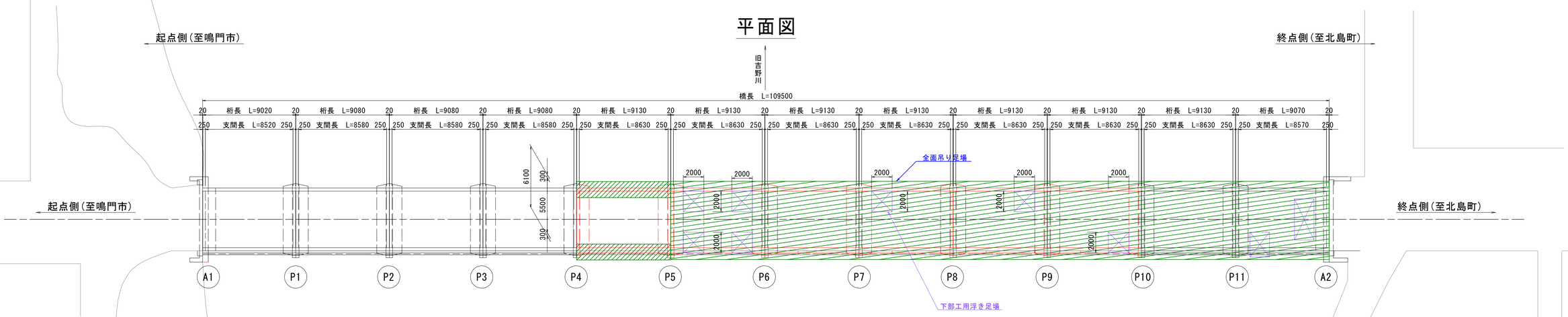
施工計画図 S=1:200

牛屋島橋

側面図

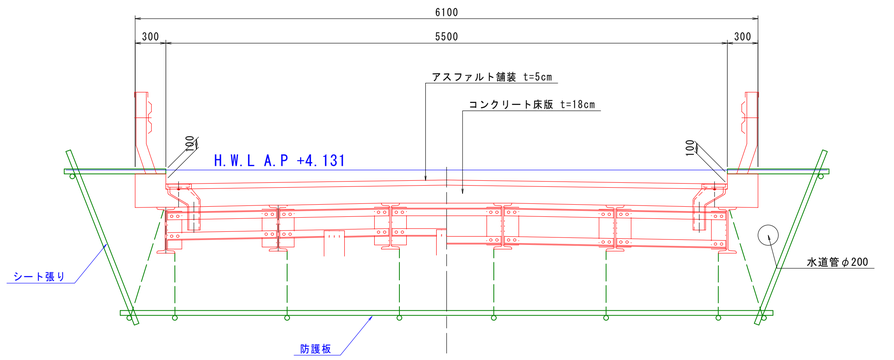


平面図



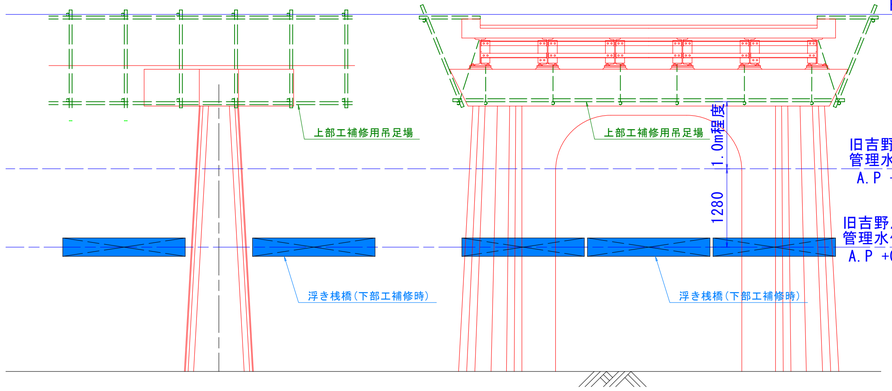
上部工用(吊り足場) S=1:30

正面図



下部工用(吊足場) S=1:50

側面図



正面図

図面番号	第 17 号	図面総数	全 17 葉
工事名称	牛屋島橋橋梁補修工事		
図名	施工計画図	縮尺(A1):図示	
製作年月	令和7年6月	所属年度	令和7年度

係員	課長	副課長	係長	係員	設計・製図	照査

鳴門市 都市建設部 土木課